

2021年度 第1回日本肺高血圧・肺循環学会理事会 議事録

日時：2021年5月6日（木曜）13時10分～14時

場所：Zoom 開催

出席理事：巽浩一郎、伊藤浩、伊藤正明、江本憲昭、荻野均、桑名正隆、小垣滋豊、近藤博康、下川宏明、瀧原圭子、伊達洋至、田中住明、辻野一三、土井庄三郎、中山智孝、福田恵一、福本義弘、室原豊明、松原広己、安岡秀剛、渡邊裕司 21名

欠席理事：佐藤徹 1名

議題

報告事項

1. 第6回（2021年度）日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 5月6日（木曜）～5月8日（土曜）

準備状況 土井庄三郎 会長

学術集会YIA（基礎）審査委員：

山岸敬幸（慶應義塾大学医学部小児科）

守尾嘉晃（独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器内科）

山崎宜興（日本医科大学大学院医学研究科 アレルギー膠原病内科分野）

中岡良和（国立循環器病研究センター研究所 血管生理学部）

学術集会YIA（臨床）審査委員：

片岡雅晴（慶應義塾大学医学部内科学(循環器)）

安岡秀剛（藤田医科大学医学部リウマチ・膠原病内科学）

細川奨（"東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科/茨城県小児・周産期地域医療学講座（小児科）"）

正木直樹（宮城県立こども病院 心臓血管外科）

2. 第7回（2022年度）日本肺高血圧・肺循環学会学術集会準備状況 桑名正隆 会長

3. 学会会員数の推移

学会会員数の推移をまとめました。2020年度の会員数の増加は土井庄三郎先生のご尽力による小児循環器内科医の新入会増加です。この会員数には幽霊会員が50～60名含まれております（会費未納者です、学術集会での発表はありません、発表する場合には会員かどうかのチェックをして、会費納入しているかどうかのチェックをします）。会員であること、評議員であることは、一部の先生方にとってはキャリアアップになっている場合があります。

会員数の推移に関して：会員管理に関しては、レタープレス社に依頼して管理システムを数年に亘り構築しました。しかし、レタープレス社に会員管理（入会、退会、会員からの連絡対応）のすべてを依頼するのは無理です。入会時は事務局からの連絡、対応が必要になります。機械的な年会費依頼、退会のための会員名簿からの削除はレタープレス社が可能ですが、会員からの個別依頼はすべて事務局が対応することになります。

巽および教授秘書は他学会の会員管理などの学会事務作業経験があったため、本学会の事務作業が可能でした。

次の理事長になる先生には、有能な秘書さんがついており、ある程度ボランティア的に学会事務局業務をして頂けることが必須と感じています。この業務は医局員の先生にはできません。

会員管理には会計管理を伴います。学会通帳は理事長が管理する必要があります。

大学、病院の会計管理をご自分で担当されている理事の先生はいないと思います。大学の会計管理にある程度習熟している秘書さんの存在が不可欠です。理事長が銀行に行き、振込作業をする、通帳記入をすることはありえないと思います。会員数の推移の表作成業務も 教授秘書さんにして頂いております。

2017年度会員 医師 413名（会費未納者 55名）、医師以外 24名（会費未納者 4名）、休会5名

在籍合計 442名

2018年度会員 医師 420名、医師以外 25名、休会4名、在籍合計 449名

2019年度会員 医師 436名、医師以外 30名、休会4名、在籍合計 470名

2020年度会員 医師 506名、医師以外 43名、休会4名、在籍合計 552名

4. 会計報告

2020年度 前年度からの繰越金は下記のように増えております。荻野均会長の学術集会余剰金があり、黒字会計となりました。年会費の合計と会員数を比較すると、幽霊会員の存在が理解できると思います。学会費をきちんとお支払い頂ける会員が460名くらいになります。

一部の理事の先生方からのご指摘のように、学術集会、学会は黒字にならないことが望ましいと思われま。利益団体ではありませんので、あくまでも学術活動を推進するための団体と認識しています。JCSに学会管理を依頼することは可能ですが相当な金額をとられます（以前に検討したことがあります）。コロナ禍での土井庄三郎先生の学術集会がたとえ赤字になっても、学会から補填は可能と考えています。

会計内訳を示します。2020年度はGSKから最後の教育研究事業助成500万円を頂いたのが学会運営には助かりました。2020年度にて終了になります。

学会奨励賞は残余金ができましたので、100万円はヤンセンに戻しました（契約です）。

八巻賞の残金は500万円になりましたが、これまで学術活動に対して有効利用させて頂いたと感じております。

一つ前のメールの会員管理を含めて、このような会計管理を理事長が担当することは不可能と思います。理事長と常に相談しながら業務を遂行できる有能な献身的な秘書さんがいないと無理と思います。

2020年度会計報告（2020.4.1～2021.3.31）（GSK医学教育事業への補助金会計は別）

収入

年会費 4,623,000円

前年度繰越金 36,767,436円（故 八巻重雄先生 ご寄付残額 7,000,000円を含む）

第5回学術会議余剰金 6,881,899円

バナー広告 154,000円

利息 350円

合計 48,426,685円

前年度繰越金 40,767,436円よりヤンセンファーマ社寄附金4,000,000円（学会奨励賞として契約）を別途会計とする

よって前年度繰越金は36,767,436円

支出

事務局経費 684,686円

八巻賞 1,000,000円（2020年度賞金）

奨励賞への補助 3,394円

GSK医学教育事業への補助金 5,427円

次年度繰越金 46,733,178円（故 八巻重雄先生 ご寄付残額 6,000,000円を含む）

合計 48,426,685円

5. 2021年度新規評議員および退任評議員

2021年度 新評議員

循環器内科

安田聡 東北大学医学部循環器内科教授（推薦者：下川宏明）

桑原宏一郎 信州大学医学部循環器内科教授（推薦者：室原豊明）

呼吸器内科

今野哲 北海道大学医学部呼吸器内科教授（推薦者：辻野一三）

守尾嘉晃 国立病院機構東京病院呼吸器センター長（推薦者：土井庄三郎）

鈴木拓児 千葉大学医学部呼吸器内科教授（推薦者：巽浩一郎）

小児科

山岸敬幸 應義塾大学小児科教授（推薦者：土井庄三郎）

2021年度 評議員退任

長谷川好規 NHO 名古屋医療センター院長、前名古屋大学呼吸器内科教授

岡田克典 東北大学加齢医学研究所 呼吸器外科教授

6. 2021年度八巻賞

【八巻賞】

伊波巧（杏林大学医学部 循環器内科学）

慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術の刷新と発展

（選考委員長からの報告）

2021年度の八巻賞には3名の応募がありました。

3名とも優れた実績を有する候補者でしたが、選考委員5名による厳正な選考の結果、他の2候補に比してより高い評価を得た、杏林大学循環器内科学・学内講師の伊波巧（たくみ）先生を、全員一致で受賞者として決定いたしました。

伊波先生は、佐藤徹特任教授の下で、一貫して肺高血圧症、特に慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）の研究および臨床に取り組んできました。特に肺動脈バルーン形成術（BPA/PTPA）においては、術後の肺水腫予防戦略や pressure wire を用いた治療手技の開発、多数例における長期予後の報告などを、一流誌である Circulation, JACC Cardiovascular Intervention, International Journal of Cardiology などに多数報告し、この領域での学術的貢献は顕著であります。

また、臨床面でも、わが国の High-volume centers の一つである杏林大学循環器内科において、肺高血圧症診療チームの責任者として活躍中であります。

以上、伊波先生は、今後のわが国の肺高血圧症の診療・研究を牽引する有望な人材として期待されますので、2021年度の八巻賞を授与することといたしました。

残念ながら今回は受賞に至らなかった2名の先生も、今後のご活躍を祈念申し上げます。

2021年度 八巻賞選考委員会

委員長：下川宏明（国際医療福祉大学医学部・大学院医学研究科）

委員

田中住明（北里大学医学部 膠原病・感染内科学）

松原広己（国立病院機構岡山医療センター 循環器科）

荻野均（東京医科大学 心臓血管外科）

渡邊裕司（浜松医科大学医学部 臨床薬理学講座）

7. 2022年度 八巻賞選考委員会

選考委員長：下川宏明

選考委員：土井庄三郎 国立病院機構災害医療センター 小児科

佐藤徹 太平洋記念みなみ病院 循環器内科

辻野一三 北海道大学大学院医学研究院 内科学講座（呼吸器内科）

安岡秀剛 藤田医科大学 リウマチ・膠原病内科

8. 2021年度学会奨励賞 臨床研究賞

評価点数のみでなく委員の先生方からのコメントも加味して上位3名に臨床研究賞を授与した。

【学会奨励賞 臨床研究賞】

（1）守山英則 慶應義塾大学医学部循環器内科

肺高血圧症における右室局所機能解析の有用性と臨床的意義の解明 33.3点（28～36点）

（2）福満雅史 国立循環器病研究センター 循環動態制御部

数理循環モデルを用いた肺高血圧症における右室力学的負荷の包括的解明 31.6点（26～35点）

（3）青木竜男 国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門肺循環科 29.4点（24～32点）

慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術後の薬物療法の意義

臨床研究賞選考委員会

巽浩一郎 千葉大学真菌医学研究センター 呼吸器生体制御学研究部門

伊藤浩 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学

伊藤正明 三重大学病院 臨床研修・キャリア支援部

近藤康博 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科
佐藤徹 杏林大学病院 循環器内科
中山智孝 高知赤十字病院 小児科
伊達洋至 京都大学大学院医学研究科 呼吸器外科学
室原豊明 名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学
安岡秀剛 藤田医科大学 リウマチ・膠原病内科

9. 2022年度 学会奨励賞 臨床研究賞 選考委員の選出

選考委員長

福本義弘 久留米大学医学部内科学講座 心臓・内科部門

選考委員

瀧原圭子 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター
伊藤浩 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学
伊藤正明 三重大学医学部附属病院臨床研修・キャリア支援部
荻野均 東京医科大学 心臓血管外科
近藤康博 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科
伊達洋至 京都大学大学院医学研究科 呼吸器外科学
中山智孝 高知赤十字病院小児科
松原広己 国立病院機構岡山医療センター 循環器科

10. 2021年度 学会奨励賞 基礎研究賞

2021年度の学会奨励賞 基礎研究賞ですが、選考委員全員の先生方から合格の評価を頂きました。

平出貴裕先生の指導者である福田恵一先生からは評価に加わらない由のご連絡を頂き、参考意見を頂きました。福田恵一先生のご評価を入れても、いれなくても最終評価は変わらないという結果でした。

【学会奨励賞 基礎研究賞 応募者】

平出貴裕 慶應義塾大学医学部循環器内科

潰瘍性大腸炎治療薬の青黛が肺動脈性肺高血圧症を惹起するメカニズムの解明と新規肺高血圧症モデル動物の作成

基礎研究賞選考委員会

巽浩一郎 千葉大学真菌医学研究センター 呼吸器生体制御学研究部門
江本憲昭 神戸薬科大学 臨床薬学講座
桑名正隆 日本医科大学 アレルギー膠原病内科
小垣滋豊 大阪急性期・総合医療センター 小児科・新生児科
瀧原圭子 大阪大学保健センター
辻野一三 北海道大学大学院医学研究院 内科学講座（第一内科）
土井庄三郎 国立病院機構災害医療センター 小児科
福田恵一 慶應義塾大学医学部 循環器内科
福本義弘 久留米大学医学部内科学講座 心臓・内科部門

11. 2022年度学会奨励賞 基礎研究賞 選考委員の選出

選考委員長

福本義弘 久留米大学医学部内科学講座 心臓・内科部門

選考委員

巽浩一郎 千葉大学真菌医学研究センター 呼吸器生体制御学研究部門
桑名正隆 日本医科大学大学院医学研究科 アレルギー膠原病内科学
江本憲昭 神戸薬科大学 臨床薬学講座
小垣滋豊 大阪急性期・総合医療センター 小児科・新生児科
田中住明 北里大学医学部 膠原病感染内科
福田恵一 慶應義塾大学医学部 循環器内科

室原豊明 名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学
渡邊裕司 浜松医科大学医学部 臨床薬理学講座

12. 2021年度 Jamieson CTEPH award

2021年度から設立されたJamieson CTEPH awardに多数の応募者があった。二名の先生は、学会奨励賞と同時応募であり、共に学会奨励賞 臨床研究賞受賞となった。そのため、二名の先生方は選考から外れた。最優秀賞と優秀賞を下記のように選考した。

最優秀賞

東北大学 循環器内科 矢尾板信裕

Identification of the novel variants in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension. J Am Heart Assoc. 2020 Nov 3;9(21):e015902.

「雑誌のIFも高く、詳細な解析結果で、論文の完成度も高い。臨床上の疑問の重要な一回答である。

Whole genome 解析で、PAHあるいは急性と関連するCTEPHと急性と関連しないCTEPHに着目した興味深い研究。TAFIが、急性に関連しないTHBD変異例において活性化している点も興味深い。海外、日本の既知の報告との関連が不明。CTEPH患者にAPEの既往があるかどうかを検討、遺伝子多型、凝固線溶系マーカーがこれらに関係しているかどうかを検討した。」

優秀賞

千葉大学 呼吸器内科 山本慶子

Protective role of endothelial progenitor cells stimulated by riociguat in chronic thromboembolic pulmonary hypertension. Int J Cardiol. 2020 Jan 15;299:263-270.

「Riociguatの新たな効果に関する検討で興味深い。雑誌のIFも2を超える。CTEPHの内膜障害に対する修復機転の一つとして内皮前駆細胞は防御的役割を果たしており、リオシグアトはそれに影響する」

今年度の選考過程を受けて、2022年度 Jamieson CTEPH awardの選考を「国内から海外への情報発信（論文）を表彰することを目的とする、主に国内施設で行われた研究論文を対象とする。」に変更した。

選考委員長

荻野均 東京医科大学 心臓血管外科

選考委員

巽浩一郎 千葉大学真菌医学研究センター 呼吸器生体制御学研究部門
江本憲昭 神戸薬科大学 臨床薬学講座
田邊信宏 済生会習志野病院 肺高血圧症センター
松原広己 国立病院機構岡山医療センター 循環器科
渡邊裕司 浜松医科大学医学部 臨床薬理学講座

13. 2022年度 Jamieson CTEPH award選考委員の選出

選考委員長

荻野均 東京医科大学 心臓血管外科

選考委員

巽浩一郎 千葉大学真菌医学研究センター 呼吸器生体制御学研究部門
江本憲昭 神戸薬科大学 臨床薬学講座
田邊信宏 済生会習志野病院 肺高血圧症センター
松原広己 国立病院機構岡山医療センター 循環器科
渡邊裕司 浜松医科大学医学部 臨床薬理学講座

14. 2022年度 循環器内科 新理事の選出に関して

2022年3月末での循環器内科の理事交代は下記の4名。

伊藤正明（三重大学）、佐藤徹（杏林大学）、下川宏明（東北大学）、瀧原圭子（大阪大学）

2022年4月からの新理事4名は下記

安田聡（東北大学医学部 循環器内科 教授）
田村雄一（国際医療福祉大学医学部教授、三田病院肺高血圧症センター）
大郷剛（国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 肺循環科 部長）
片岡雅晴（産業医科大学 循環器内科 教授）

15. 2022年度 小児循環器 新理事の選出に関して

2022年3月末での小児循環器の理事交代は下記の1名。

中山智孝（高知赤十字病院）

2022年4月からの新理事は下記

山岸敬幸（慶應義塾大学 小児科 教授）

16. 2022年度 呼吸器内科 新理事の選出に関して

2022年3月末での呼吸器内科の理事交代は下記の1名。

巽浩一郎（千葉大学）

2022年4月からの新理事は下記

鈴木拓児（千葉大学医学部 呼吸器内科 教授）

17. 理事追加に関して

本学会の活動は学術集会の開催が主となっている。

学術集会の開催以外の本学会活動として、現時点ではJAPHRレジストリーを中心とした活動が主となっている。JAPHRレジストリーと関係して、AMED研究、厚生労働省政策研究が展開されている。

学術集会の開催以外の学会活動を理事会でも議論するために、JAPHRレジストリー各群のまとめ役となっている先生を理事として加えてはどうかの提案を理事長からしたが、保留となった。

18. 2023 年度の学術集會會長選出

2023 年度 第 8 回. 江本憲昭（神戸薬科大学、臨床薬学講座）（循環器内科、基礎）

2023 年度 第 8 回は循環器内科理事が学術集會會長を担当することは決定済み。

あらかじめ立候補届を提出して頂き、江本憲昭理事、福本義弘理事の 2 名が会長候補として立候補した。

2020 年 9 月 25 日の理事会終了後の投票結果

理事総数 22、返信なし 12、江本憲昭 7、福本義弘 3

過去の理事会の際の学術集會會長の選出は満場一致で決定されていた。投票結果は上記のとおりであり、過半数以上は返信なしであった。

共に学術集會會長として適任であるが、江本憲昭理事が 4 歳年長のため 2023 年度会長として江本憲昭理事に決定した。

江本憲昭理事、福本義弘理事のどちらが先に会長を担当するのかを決めるという意見が大半であった。

2024 年度会長は 2023 年度担当とならなかった循環器内科理事とする意見もあったが、呼吸器内科理事から 2024 年度が最後のチャンスであるのでという理由で立候補の意志表明があったため、2024 年度の会長決定は保留とした。

19. 研究倫理に関して

今後の課題事項とする

20. 2021年度 暫定理事長の選出（任期1年；2022年3月末まで）

2020 年度 暫定理事長の巽浩一郎が、2022 年 3 月末まで務めることに決定した

21. 2022年度 新理事長選出に関して

新理事を加えた理事会を開催して、新理事長を選出することに決定した

審議事項

1. 日本肺高血圧・肺循環学会 学術集会のあり方に関して

本学会の学術集会への参加を他学会の単位認定に加えて頂くことで学会の認知度向上、学術集会への参加を促進できるのではないかと意見あり。